

## 第3学年1組 英語科学習指導案

平成28年11月30日(水) 第5校時

場所：3学年教室

指導者：教諭 松本 涼一

ALT Anthony Ballard

授業テーマ	後置修飾が用いられた文を理解し、既習事項を活用して表現することができる授業
-------	---------------------------------------

### 1 単元名 Unit 6 Striving for a Better World (NEW HORIZON English Course 3)

#### 2 単元について

##### (1) 生徒観

本学級は、男子1名、女子7名の計8名で編制されている。落ち着いて授業に取り組むことができおり、意欲的に発言する生徒が多い。生徒間で英語力の差が見られるが、これまで「話す」「書く」活動で日本語の使用を認めたり、協同的な学び合いの場を設定したりしたことで、英語学習に対する意欲が高まってきている。また、生徒は1年時から帯学習の時間に、コミュニケーション力の向上を目指して、QA やスピーチ、ディベートなどの活動に継続して取り組んでいることから、少しずつではあるが、既習事項を活用して自分の考えを英語で表現できるようになってきた。

##### (2) 教材観

本単元では、言語材料として、接触節や関係代名詞の who、which、that による後置修飾を扱う。生徒は、これまで前置詞や不定詞、分詞による後置修飾を学んでいるため、それらの既習事項と関連付けながら学習させることで、英語による詳しい説明やより豊かな表現力を育成できると期待される。また、生徒は、自分の身の回りのことを英語で表現することに取り組んできたが、本単元では、アウンサンスーチーが取り上げられているので、人権問題や世界平和、女性の社会進出など視野を自分の身の回りのことから世界へと広げ、豊かな表現活動が展開できると考えられる。

##### (3) 指導観

接触節や関係代名詞については、毎時間帯学習で実施している多読の中で日常的に接しているので、理解は難しくないと考える。そのため、本単元の後半にはそれらを活用する言語活動を設定し、表現までつなげたい。また、言語の習得には長期的なスパンが必要であるため、本単元全体を該当言語材料の習得期間と捉え、第1、2時を生徒の言語的な気づきを促すインプットの期間とし、第3時以降に内在化を図っていきたい。さらに、本単元では、アウンサンスーチーに関する記事を扱うことから、生徒が自分たちの考えを表現する場面を設定することで、これまで身につけた力を活用しながら、自分たちのことと世界を関連させ、より深い学びにつなげていきたい。

#### 3 単元の目標

- ・ 間違いを恐れず積極的に話すことや書くことの言語活動に取り組んでいる。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・ 接触節や関係代名詞を用いて人や物について詳しく説明することができる。【外国語表現の能力】
- ・ アウンサンスーチーについて書かれた記事を正しく理解することができる。【外国語理解の能力】
- ・ 接触節や関係代名詞の形・意味・用法を正しく理解している。【言語や文化についての知識・理解】

4 指導・評価計画 (総時数 9時間) (本時 1/9時)

時	目 標	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
1 (本時)	○接触節や関係代名詞を用いた文の意味を理解できる。	間違いを恐れずに、積極的に言語活動に取り組もうとしている。		接触節や関係代名詞を用いた文の意味を理解できる。	
2	○接触節や関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	間違いを恐れずに、積極的に言語活動に取り組もうとしている。	接触節や関係代名詞を用いて自分のことについて表現することができる。		接触節や関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
3	○Starting Out の英文を読んで、内容を理解できる。			本文の内容を読み取ることができる。	接触節を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
4	○Dialog の英文を読んで、内容を理解できる。			対話文を読んで、本文の内容を読み取ることができる。	関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
5	○Reading for Think 1 の英文を読んで、内容を理解できる。			アウンサンスーチーについての記事を読んで、内容を理解することができる。	関係代名詞 that[which] (主格) を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
6	○Reading for Think 2 の英文を読んで、内容を理解できる。			アウンサンスーチーについての記事を読んで、内容を理解することができる。	関係代名詞 that[which] (目的格) を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
7	○Activity1 を聞いて、内容を理解できる。	間違いを恐れずに、積極的に言語活動に取り組もうとしている。		ジョン・レノンについてのレポートを聞き、内容を理解することができる。	
8	○接触節や関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	間違いを恐れずに、積極的に言語活動に取り組もうとしている。	接触節や関係代名詞を用いて、人や物について表現することができる。		

9	○接触節や関係代名詞を用いて、世界で活躍する人についてレポートを作成することができる。	間違いを恐れずに、積極的に言語活動に取り組もうとしている。	接触節や関係代名詞を用いて、世界で活躍する人について表現することができる。		
---	---	-------------------------------	---------------------------------------	--	--

## 5 本時のねらい

- ・ 接触節や関係代名詞を用いて書かれた文を理解することができる。(外国語理解の能力)

## 6 授業の構想

本時は、自分のことについて、接触節や関係代名詞（who, which, that）を用いて書かれた文を読み、既習事項を活用して表現する授業である。教科書では、これらの言語材料を段階的に学習するようになっているが、どれも生徒には馴染みのある後置修飾の表現であるため、同時にスゴロクトークの指示として多く触れさせ、形式や用法を理解させたい。また、教師の文法的な説明から授業を始めるのではなく、生徒に課題を与え、それを解決する中で新出言語材料の形式や用法に気づかせたいと考える。生徒の理解度は、与えられた英語の指示に従って表現できるかどうかで判断する。その際は、表現にあまり重点を置かないため、英語が苦手な生徒には、日本語も使用可能とすることでより積極的な授業参加を促したい。

## 7 帯学習計画

本校では、生徒のコミュニケーション力を高め、学習事項の定着を図るため、毎時間帯学習の時間を設定している。内容は、洋書が多読や単語テストなどのインプット活動、チャットやジャンケンディベート、1分間モノログなどのアウトプット活動で、これらの継続的な取り組みが生徒の英語力を支えている。

本校には復興支援物資として、福岡女学院中高の坂本彰男先生をはじめとする多読実践者の方々より寄贈していただいた、約800冊の洋書がある。それらを活用して全校生が授業内で5分間多読を行っており、教科書とは違って制約のない自然な英語表現の習得や語彙力の向上を図っている。現在は、読み聞かせ活動を定期的に取り入れ、表現力の育成にも努めている。以下は、本単元の帯学習計画である。

時	インプット活動		アウトプット活動
1(本時)	読み聞かせ	Unit 5 単語チェック	ジャンケンディベート「紙辞書か電子辞書か」
2	多読	Unit 5 単語チェック	ジャンケンディベート「紙辞書か電子辞書か」 5分間ライティング「紙辞書か電子辞書か」
3	多読	Unit 5 単語チェック	1分間モノログ “the best place I've ever visited”
4	多読	Unit 5 25問単語テスト	1分間モノログ “the best place I've ever visited”
5	読み聞かせ	Unit 5 25問単語テスト	1分間モノログ “the best place I've ever visited”
6	多読	Unit 5 25問単語テスト	5分間ライティング“the best place I've ever visited”
7	多読	Unit 5 25問単語テスト	1分間モノログ “the person I want to thank most”
8	多読		1分間モノログ “the person I want to thank most”
9	読み聞かせ		1分間モノログ “the person I want to thank most”

## 8 学習過程

段階	学習活動・内容	形態	時間	○教師の支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・評価 (方法)</span>
帯 学 習	1 ペアで読み聞かせをする。	ペア	5	○ 読めない単語の発音を教える。
	2 Unit 5 の単語シートを使い、ペアで日本語→英語のチェックをする。	ペア	5	○ 読めない単語がある生徒には発音を教える。
	3 「紙の辞書と電子辞書のどちらが良いか」についてペアでディベートし、1分間に何語話せたかを記録する。	ペア	5	○ 終了後に、生徒が言いたくても英語で言えなかった表現を板書し、次回の参考にさせる。
導 入	4 Teacher Talk を聞く。 ・ What is the best place you've ever visited? ・ What is the Japanese food that you can't live without?	一斉	5	○ 接触節や関係代名詞を用いた表現を使って会話する。理解しにくい表現は、易しい表現に言い換える。 ○ 教師同士の会話に続けて、教師→生徒、生徒同士で会話させる。
展 開	5 すぐろくトークをする。 (1) すぐろくをし、駒が止まったところに書いてある質問に英語で答える。 (2) 英語で言えないことは日本語で話す。 (3) 途中でグループを変え、2回戦行う。	グル ープ	10	○ すぐろくトークのやり方の確認をする。 ○ JTE はグループを周り、ALT はグループに参加して生徒の理解や発話を支援する。 ○ 上位の生徒には、答えだけでなくその理由や自分の考えなどを加えるよう促す。
	6 すぐろくトークの質問が書かれたワークシートを読み、自分の答えを書く。	個	7	○ 早く終わった生徒には、まだ終えていない生徒のサポートをさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">・接触節や関係代名詞を用いて書かれた文を理解することができる。 (ワークシート)</div>
	7 指定された質問について、全員で話し合う。(「踊る英語御殿」)	一斉	8	○ 生徒同士の話をつなげ、話しやすい雰囲気を作る。 ○ 生徒が日本語で話しても、英語に言い換えてフィードバックする。
ま と め	8 接触節や関係代名詞の使い方についてまとめる。	一斉	5	○ 既習の後置修飾を活用して系統的にまとめる。

